

東京バッハ合唱団 月報

[第 627 号] 2014 年 9 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 627

September 2014

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

東京バッハ合唱団 3.11 被災地訪問公演(2015 年)

概要、参加者募集のご案内【第 1 報】

来年の定期演奏会(第 112 回)は、東日本大震災の被災地・福島県の南相馬市を訪ねて、現地の合唱団の方々との協演が計画されています。被害の実態(原発事故の避難区域が含まれます)を知り、現状を理解しながら、被災地の音楽ファンみなさんに、本格的なバッハ音楽をお届けしようとするものです。

去る 8 月 1 日、ホールの抽選会にて下記(下線)のとおり、演奏会の日取りが決定しました。南相馬でバッハを日本語で歌ってみたい方、現地でコンサート鑑賞をのぞむ方、東京からの同行、現地での合流、いろいろ選択肢を考えてみます。まずは、ご意向・希望をお寄せください。

<1> ツアー概要 [第 1 次案]

2015 年 8 月 21 日(金)～22 日(土)(1泊2日)。

○8/21(金): ツアー本隊(ソリスト・オーケストラ等含む)移動(都内⇒南相馬、チャーターバス、5～7 時間)、被災地を知る(市内・海岸)、現地の方がたとの交歓会、宿泊先へ。集合・ピックアップ地点など未定。

○8/22(土): 会場準備、リハーサル(午前)、本番(午後、2 時間ほど)、移動(南相馬⇒都内、最大 7 時間)。

<2> 第 112 回定期演奏会プログラム [第 1 次案]

○日時: 2015 年 8 月 22 日(土)、午後開演

○会場: 南相馬市民文化会館(ゆめはっと)大ホール(1109 席)

○曲目: J・S・バッハ作曲(日本語演奏)

・カンタータ第 92 番《わが心 思い 神にゆだねたり》
・「花は咲く」「大切なふるさと」「ふるさと」(そうま地方合唱を楽しむ会合唱団)

・カンタータ第 81 番《主イエス眠り いかによびわが望み》

・モテット《イエス よろこび》

(中間に休憩あり。アンコール: コラール「主よ 人の望みの喜びよ」、「ふるさと」聴衆も全員合唱)

○演奏: 大村恵美子指揮、東京バッハ合唱団、そうま地方合唱を楽しむ会合唱団(協演)。ソリスト、オーケストラメンバー、オルガニストは、これより折衝を開始します。

○入場料(全席自由): 前売 1000 円、当日 1200 円の予定(東京バッハ合唱団団友・後援会員はご招待)

○主催: 東京バッハ合唱団

○協力: そうま地方合唱を楽しむ会合唱団

○後援: ドイツ連邦共和国大使館(予定)、南相馬市文化振興事業団、その他交渉中

○協賛: 多数依頼予定

<3> 参加費と個人負担 [第 1 次案]

○参加費…合唱出演者のみなさまには、通常の定期公演同様、公演費・ツアー運営費等の経費から、チケット収入などを差し引いた額を、参加人数を参考にして、あらかじめ分担していただくこととなります。後日、参加者数などが固まり次第、ご案内します。

○個人負担費…その他に、自身の交通費、宿泊費、食費等の個人経費があります。

<4> 練習日程と開始日、楽譜(カンタータ 2 曲とモテット)の準備

○土曜日: 荻窪教会 15:30 - 17:30

○月曜日: 目白聖公会 18:30 - 20:30

(どちらの会場への参加もご自由。土・月とも、祭日にあつた場合の練習は、原則として休み)

第 112 回定期演奏会 予告

～ 3.11 被災地訪問公演(2015 年)～

[日時] 2015 年 8 月 22 日(土)、午後

[会場] 南相馬市民文化会館(ゆめはっと)大ホール
(〒975-0008 福島県南相馬市原町区本町 2 丁目 28-1)

[曲目] J.S. バッハ(日本語演奏)

・カンタータ第 92 番《わが心 思い 神にゆだねたり》

・「花は咲く」「大切なふるさと」「ふるさと」(協演)

・カンタータ第 81 番《主イエス眠り いかによびわが望み》

・モテット《イエス よろこび》

[演奏] 大村恵美子(指揮/訳詞)、東京バッハ合唱団、そうま地方合唱を楽しむ会合唱団(協演)

独唱(S/A/T/B)、器楽(Rec/F1/Ob/Obdam, Str, Bc/Org)

[チケット] 全席自由席 1000 円(当日 1200 円)の予定

○本年 12 月の第 111 回定演（12/13）終了までは、別記 4 曲（チラシ参照）の練習が主体ですが、ぜひご参加ください。

○第 112 回定演（南相馬）曲目の練習は、来年 1 月から始まります（荻窪 1/10 より、目白 1/19 より）。

○使用楽譜：カンタータ 2 曲（BWV92、BWV81）は制作中、本年 10 月発行予定。モテット《イエス よろこび》（自家製本）は用意あり（500 円）。

お・た・よ・り

心の琴線にふれる、私の聴き方

花井 鉄弥（後援会員）

拝啓、[……] 創立 50 周年記念のバッハ 4 大合唱作品連続演奏という未曾有の業績を成功裏に成し遂げられましたこと、心よりお慶び申し上げます。明年には南相馬市で公演を開催されるご準備を進めておられる由、今後の発展にも期待がふくらむ思いです。私こと、家にてひっそり逡巡するのみで、念願しながらも演奏会への出席もかなわず申し訳なく思っております。

病院にて痛む膝をかかえて寝ておりました。今後どう生活していけばよいか、どうにもやり場のない気持ちでしたが、3 カ月なかばほどで退院し、リハビリをつづけるうち、痛みも和らぎ、落ち着いてまいりました。膝の軟骨をカバーするよう筋力アップに努めております。思うままに脚を運べて手足を動かし、ものごとを処理できるのはどんなに有り難いことか、不自由になってはじめて健康であることの尊さがわかります。出来るだけ息子に世話をかけぬように、自分でできることは自分でと心がけております。夕刻息子が帰ってきて一緒に食事するのが何より楽しみです。

レコード（CD）でカンタータをくり返し聴きます。同じ曲を何回も、なじみ薄かった曲も次第に心に、身体に染みこんでくるのを感じます。しばらく時をおいて再び耳にすると、ソナタが、コラールが、アルトのアリアが、オブリガートのヴァイオリンが、フルートが、合唱が、胸にせまり、あらたな感動で心がふるえます。身内によみがえるとき、この曲も自分のものになった気がします。これがバッハの強い信仰心をともしなう厳正な教会音楽の正しい聴き方ではないかもしれませんが、長い間に住みついた、心の琴線にふれる自身の聴き方があってもよいような気がします。

上野駅から石橋メモリアルホールへ、家内と歩いたオートバイが所せましと並べられた昭和通りの街筋、ホールの入り口、懐かしいロビー、小憩した喫茶室、赤い絨毯の敷かれた階段をのぼり、落ち着いた端正な雰囲気の内へ、正面に荘厳なパイプオルガン、家内と席にすわり、演奏開始を待つ至福のひとつとき、いま思い出して懐かしんでも、流れ去った過去は、二度ととり戻せない貴重な時間だったと思います。

新聞で見て、厚かましくも突然にお宅へお伺いし、先生、ご主人様、優しく応接して下さり、後援会へ入会させていただきました。思えば一生の宝もの、バッハの音楽が、その灯が身内にともされる、これもまた大切な時だったと思います。お二方と合唱団の皆様のおかげで、バッハの音楽がかけがえない心の灯としていつも心を慰めてくれましたこと、幸せに思います。今後とも身体は不自由でありましようとも、精神が堅固に生きつづけるかぎり、写経（両親の亡くなりましたころより 30 年あまり続けて、静岡の菩提寺にお納めしております）、萬葉集とともに、バッハの音楽、生きる上での大事な心の糧としてまいりたいと念願しております。

先生はおいくつになられましても、弛みなく研鑽し、指導し、演奏し、世に伝えていかねばならない限り、お仕事がつづきます。私ども凡人には思いもおよばない生命力を堅持していかねばなりません。50 年間ひとびとの心にともし続けた、暖かいバッハの灯が今後もずっと生き続けてまいりますよう祈念せずにはおられません。ご健康を心よりお祈り申し上げます。

敬具

第 111 回定期演奏会

～3.11 被災地に贈る、バッハのクリスマス音楽の花束～



[日時] 2014 年 12 月 13 日（土）、19:00 開演
（開場 18:30、終了 21:00 頃予定）

[会場] 府中の森芸術劇場 ウィーンホール

[交通] 京王線「東府中」駅北口、徒歩 7 分

[曲目] J. S. バッハ（日本語演奏）

- ・《マニフィカト》4 つの挿入曲
- ・カンタータ第 97 番《わがすべてのわが 主に導かる》
- ・カンタータ第 62 番《いざ来たりませ 世の救い主》
- ・カンタータ第 36 番《喜びのぼれいと高き星に》

[演奏]

光野孝子（ソプラノ）、佐々木まり子（アルト）

鳥海 寮（テノール）、山本悠尋（バス）

草間美也子（オルガン）、東京カンタータ室内管弦楽団

大村恵美子（指揮/訳詞）、東京バッハ合唱団

[チケット]

全席自由席 3500 円（当日 4000 円）

取扱い：合唱団事務局（チケット発売中）

参加団員募集

9 月から、全曲の本格的な練習が始まります。

この機会に、あなたも日本語でバッハを歌ってみませんか。事務局までお問い合わせください。

新刊紹介

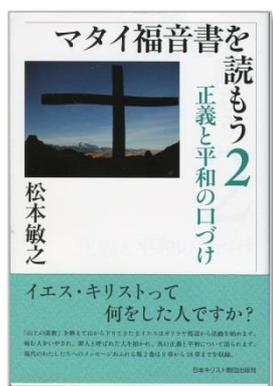
松本敏之著

『マタイ福音書を読もう』

② 正義と平和の口づけ』

日本キリスト教団出版局

2014. 6. 20 刊



大村 恵美子 (主宰者)

私たちがバッハ四大作品連続演奏の幕開けとして、《ロ短調ミサ曲》の日本語初演（この作品は、当合唱団として3度目の上演でありながら、これまでラテン語原詞演奏を守ってきたので、日本語では今回が初演でした。2011. 12. 3）にとり組んでいるころ、松本敏之先生（2002年より日本キリスト教団経堂緑丘教会牧師。当団団友）の御著作（『神の美しい世界 — 創世記1～11章による説教』2010. 12、キリスト新聞社刊）が世に出て、私たちもあらためて、創世記の初めから聖書内容に親しみ、ミサ曲というものを、ただ教義の荘厳な音楽建築ととらえるばかりでなく、天地創造・人類の発生（誕生）についての、オリジナルな息吹きをからだ全体で感じながら、バッハのこの大作に向かい、そのための有力な読物として、心にせまってくる松本先生の文章を、団員の方々にもおすすめして、読んでいただきました。そのおかげもあり、聴衆からは、バッハの音楽も生き生きと身近に入りこんできてうれしかったと、予想を越える多くの好評をいただき、私たち演奏した側も、その後長く深い感動の余韻にうたれました。

この2011年の《ロ短調ミサ曲》から、最終回にあたる2014年春の《ヨハネ受難曲》まで、連続演奏（4作品5公演）にかかりきり、どれも成功裡に完遂できた現在、またなつかしいカンタータの世界に立ち返ってきて、冬から春の、クリスマス・受難週などの大きな教会暦イベントから解放されて、夏から秋中心の（教会暦では三位一体節後の半年間ほど）日常の生活用の聖書から題材をとった音楽を、私たちの定演をはじめとする多くのプログラムにとりあげるようになりました。

その折しも、松本先生が新しく『マタイ福音書を読もう』の第2巻をまとめられ、出版されました（このシリーズの第1巻『マタイ福音書を読もう① 一步を踏み出す』刊行は昨2013年10月）。あとがきでは、著者の恩師、神学者・牧師の小山晃佑氏（1929-2009）が「私たち夫婦をユニオン〔神学校〕の教授宅に住ませ、教室でも家の中（特に台所）でも、興味深い大事な話をたくさんしてくださいました」と記されています。もともと先生の文章は明快で、読みやすく、分かりやすいのですが、マタイ福音書の、数多くの有名なたと

え話などが、まるで親密な人びとの間のくつろいだ会話の記録のように、さまざまなイデーが飛びかって、おもしろいのです。まるで恩師宅での场景の一コマが浮かぶようです。

私ごとになりますが、私自身も、キリスト教と出あったばかりのごく若い時期に、すぐれた大先輩とお会いするごとに、福音書のたとえ話について、片っぱしから臆面もなく不敬をもおそれずに、ずばずばと質疑のやりとりをくり返したものでした。この今現在にいたっても、あれはこう、これはこう、と、何十年前のあのころの会話を、紆余曲折の仔細まで、その場面の表情まで、きのうのこのように思い出せます。それがまたさらに、この新刊を目にしたことで、くっきりと蘇ってきたのです。キリスト教、というよりもむしろイエスとの出会いは、こんな具合に、日常生活の感覚に密着しているもののように感じられます。

これからカンタータを歌いつづけてゆく時に、みんなが「ああ、あのお話ね、こんな展開だったね」と、輝く顔を見合わせながら、そこに蔵された真意を、音楽といっしょに五感で瞬発的につかむようになれば、外にもしっかりと伝わるし、お互いも本当にここからの仲間になってゆけるように思われます。このシリーズの第3巻（完結）『マタイ福音書を読もう③』は、2015年2月刊行予定とのこと、いまから期待しています。

私たちが福島県南相馬市でバッハの音楽を初めてご披露するのは、先日の抽選で2015年8月22日と決定しました。南相馬で私たちの音楽を待っていてくださる方々は、とくにバッハ音楽の熱心な愛好家というわけではなく、また日ごろからキリスト教文化に親しんでいるという方でもないでしょう。合唱ファンの方々を中心と伺っています。バッハ音楽のバックボーンであるキリスト教信仰が、一般の日本人びとにとっては苦手な一宗教的背景とのみ映るのか、バッハの普遍性をとおしてイエスの普遍性が、正しく福島の聴衆にお伝えできるかどうか、いよいよ私たちの活動の正念場です。ご紹介するこの一冊が、ぜひ私たちの心の糧として役だってくださいよう、祈ります。

新刊紹介に代えて

— 田中克彦氏への個人的感想 —

大村 恵美子 (主宰者)

今日は、敗戦後69年目の8月15日。数日前、新聞広告で見た新刊、田中克彦著『従軍慰安婦と靖国神社 — 一言語学者の随想』(KADOKAWA、2014年8月24日)を求めて、畏友田中克彦氏の本音述懐も、ここまでフランクに公表されるようになったか、と思いながら、読みました。この175ページの随想は、今後どん

な運命を辿るのか目下はわかりませんが、ここに記されていることは、ハンナ・アーレントの、ヒトラーひとりではなく、当時のドイツ国民全体にもユダヤ人迫害の罪はあるという、世の物議をかもした主張に共通するものがあると同えました。

*

本文の付録として、<「対話篇」ある日の靖国神社の境内で>（上掲書 p. 159 以降）という、著者と東条英機との仮想の対話風な述懐があります。私は、この部分に、現在の田中様のお気持ちが、まとめて理解できるような気がしました。

ターニングポイントにさしかかった日本の今日、私は、1934 年生まれの著者と、1931 年生まれの私自身の、共通点の多い過去の生活の中から、ホットポイントの 2 つの話題、従軍慰安婦と靖国神社だけを比べてみても、いろいろな視点があるものだと考えさせられました。日頃は、ずっと話のわかる、たのしい方として交友させていただいていますが、田中様は、日本の古層に深く共感を持たれる、但馬の片田舎の<ドジン>（かれの愛用語）出身として、また、「インターナショナルを歌っているうちに、心の奥底から、次のような思いがこみ上げてきた。——マルクス主義ふう言えば、靖国神社にまつられた兵士たちも、かれらをなぐさめた慰安婦たちも、日本と朝鮮の貧農やプロレタリアートの息子や娘たちだった——。」（あとがきにかえて。p. 172）とあるように、社会の貧富の断層を深く意識されます。

私自身は、早くからアカデミックな学者としてたくさん著書を刊行しておられる田中様と親交いただくには程遠い、一介の音楽家ではありますが、アメリカや満洲などで日本政府の歩みを批判的な目で見ながら私たちを育てた両親のせいで、戦時中をずっと敗けることを覚悟しながら暮らし、戦後はアメリカにペコペコする連中を情けなく思いながら、敗戦国の卑屈に耐えてきました。田中様は、日本の伝統的な魂の持ち主であり、私は、音楽の宇宙をリアルに感ずる、地球上でのさすらい人（ヴァガボンド）と言えましょうか。

従軍慰安婦は、わが国と他国のどこがどれだけ、という論点をこえて、マッチョな男の非力な女への暴力が、文明の進化によっていつか解決することがあるのだろうかという懐疑と願望をもち（死刑の存廃も同様）、また最近の韓国が、自国ばかりでなく他国にもどんどん従軍慰安婦像をふやすことについては、男による女の征服を、必然もどきに実現する戦争そのものを、根絶しなければと考えます。

この著では、従軍慰安婦問題も靖国問題も、右翼や左翼の皮相の二項対立を排する点で、新鮮な共感を覚えめました。多くの方に一読をお勧めします。ただし、ズケズケとした田中様の表現で、あちらこちらにつまづいて誤解の生じないことを期待しながら。

<了>

バッハ・カンタータと教会暦の聖句一覧 ⑮

BWV 162 《われ見たり 婚礼に出ずる今》(初演 1716.10.25)

Ach! ich sehe, itzt, da ich zur Hochzeit gehe

【教会暦】三位一体節後第 20 日曜日(他に=BWV 49, 180)

[書簡]エフェソ 5:15-21. BWV 49 に同じ。

[福音書]マタイ 22:1-14。(同上)

BWV 163 《おのが務め 果たせ》(1715.11.24)

Nur jedem das Seine

【教会暦】三位一体節後第 23 日曜日(=BWV 52, 139)

[書簡]フィリピ 3:17-21. BWV 52 に同じ。

[福音書]マタイ 22:15-22。(同上)

BWV 164 《弟子と名のる者らよ》(1725.8.26)

Ihr, die ihr euch von Christo nennet

【教会暦】三位一体節後第 13 日曜日(=BWV 33, 77)

[書簡]ガラテヤ 3:15-22. BWV 33 に同じ。

[福音書]ルカ 10:23-37。(同上)

BWV 165 《霊と水の潔めよ》(1715.6.16)

O Heiliges Geist- und Wasserbad

【教会暦】三位一体節(=BWV 129)

[書簡]ローマ 11:33-36. BWV 129 に同じ。

[福音書]ヨハネ 3:1-15。(同上)

BWV 166 《いずこへ 主よ 行きたもう》(1724.5.7)

Wo gehest du hin?

【教会暦】復活節後第 4 日曜日(=BWV 108)

[書簡]ヤコブ 1:17-21. BWV 108 に同じ。

[福音書]ヨハネ 16:5-15。(同上)

BWV 167 《主の愛を讃えよ》(1723.6.24)

Ihr Menschen, rühmet Gottes Liebe

【教会暦】洗礼者ヨハネの祝日(=BWV 32, 124)

[書簡]イザヤ 40:1-5. BWV 32 に同じ。

[福音書]ルカ 1:57-80。(同上)

BWV 168 《務めの報告を！ 恐ろしき言葉》(1725.7.29)

Tue Rechnung! Donnerwort

【教会暦】三位一体節後第 9 日曜日(=BWV 94, 105)

[書簡]第 1 コリント 10:6-13. BWV 94 に同じ。

[福音書]ルカ 16:1-9。(同上)

BWV 169 《神にのみ わが心 献げん》(1726.10.20)

Gott soll allein mein Herze haben

【教会暦】三位一体節後第 18 日曜日(=BWV 96)

[書簡]第 1 コリント 1:4-9. BWV 96 に同じ。

[福音書]マタイ 22:34-46。(同上)

BWV 170 《うれしき心の平和》(1726.7.28)

Vergnügte Ruh, beliebte Seelenlust

【教会暦】三位一体節後第 6 日曜日(=BWV 9)

[書簡]ローマ 6:3-11. BWV 9 に同じ。

[福音書]マタイ 5:20-26。(同上)

BWV 171 《主の誉れは地の果てまで及べり》(おそらく 1729.1.1)

Gott, wie dein Name, so ist auch dein Ruhm

【教会暦】新年(=BWV 16, 41, 143, 190)

[書簡]ガラテヤ 3:23-29. BWV 16 に同じ。

[福音書]ルカ 2:21。(同上)

BWV 172 《歌よ 琴よ とどろき渡れ》(1714.5.20)

Erschallet, ihr Lieder

【教会暦】聖霊降臨節第 1 日(=BWV 34, 59, 74)

[書簡]使徒行伝 2:1-13. BWV 34 に同じ。

[福音書]ヨハネ 14:23-31。(同上)

BWV 173 《高められし血と肉よ》(1724.5.29)

Erhöhtes Fleisch und Blut

【教会暦】聖霊降臨節第 2 日(=BWV 68, 174. 次項参照)

[書簡]使徒行伝 10:42-48. BWV 68 に同じ。

[福音書]ヨハネ 3:16-21。(同上)